

## ロータリーと日台関係



滑川 原 秀則

地区大会が昨年十月ひらかれたが「これでよいのだろうか」と考えさせられる点があり、誌上をかりて諸兄に訴えたい。

当日、大会の会場には、壇上にロータリークラブがある国々の国旗がならんでいた。そのなかに中華民国（台湾）の青天白日旗がみえていた。ご承知のように十年程まえ、日本と中国が

共同声明を発表し「日本国政府は、台湾が中国領土の不可分の一部であり、中華人民共和国が中国唯一の合法政府である」と承認して、国交が回復されたのである。つまり、日本は台湾を国家としてあつかわない、とする約束でありしたがって、大使館は閉鎖された。国連でも、中国の主権を尊重し、台湾の中華民国という国名と代表権を除いた。

今日的には、まだ台湾の実効支配におよんでいない。したがって、日本と台湾との交流は、従来どおりであるが、中華民国の国名と青天白日旗は、前記の理由から公的に使用できない。

昨年五月、日本女子ソフトボールチームが、国際試合のため、台湾へ行く計画があった。しかし、台湾側の青天白日旗使用の公算が大きかったため、その計画を断念した例がある。また韓国オリンピックには、台湾は台北市オリンピック委員会の旗で、参加が許されたという経緯もある。

元来、スポーツやヒューマニズムに国境はないが、国旗を使用するかぎり、国家が優先し、かつ問題となる現状である。ロータリークラブが、今後も台湾の青天白日旗の使用をつづけるならば、教科書問題のような外交問題に発展するおそれもあり、こうした国旗のあつかいについて、今後も無関心ぶりが許されるものであろうか。たいへん心配である。

一昨年のことであるが、滑川市のRC類似の団体が、台湾のそれと姉妹関係を結んだ。その盛大な交歓会で、双方の国旗がならべられ、そのまま両代表が握手する姿を、地元の新聞が報道するや、市民のなかから、青天白日旗使用の可否を問う意見や、批判がその団体に向けられた。同団体は、ことここにいったり、非を認め、陳謝の意を表した。また、その際の来賓も自己弁護にけんめいであった。

この出来事は、もってロータリークラブにとつての、他山の石ではなからうか。ロータリーは、日本人として、良識から背を向けられるような存在であっては、ならないとおもう。